Ⅰ　全校研究主題

「児童生徒の充実した生活をめざして　～小中高・舎をつなげる取組～」

Ⅱ　主題設定の理由

学校教育目標の「光り輝き、心豊かにたくましく生きる」ことを充実した生活ととらえ、児童生徒が現在と将来において充実した生活を送ることを目指し、教育活動を行う必要がある。

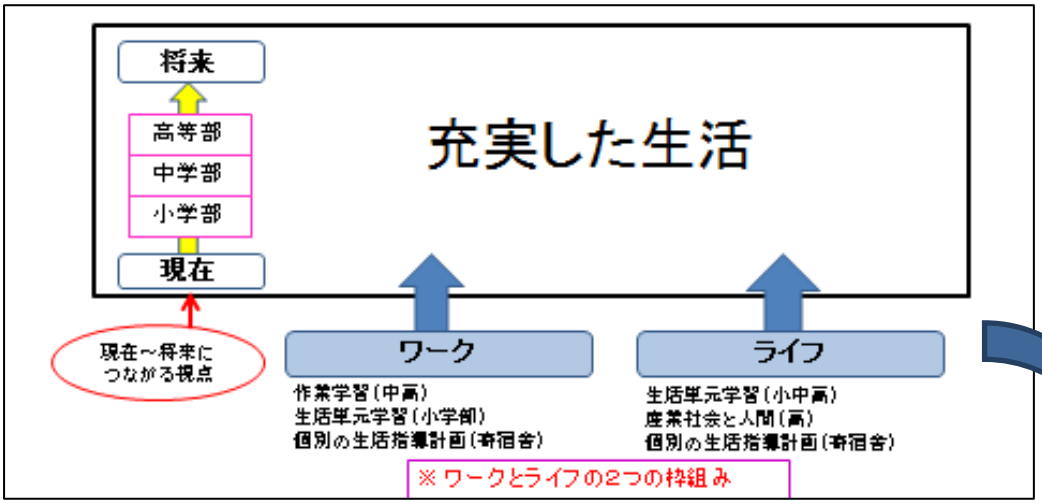
児童生徒が現在持っている力やニーズに合った適切な目標や指導内容が設定された授業に取り組むことで、達成感や充実感を感じることが可能である。それが現在の生活を充実させ、そのような経験を積み重ねていくことが将来の充実した生活につながると考える。

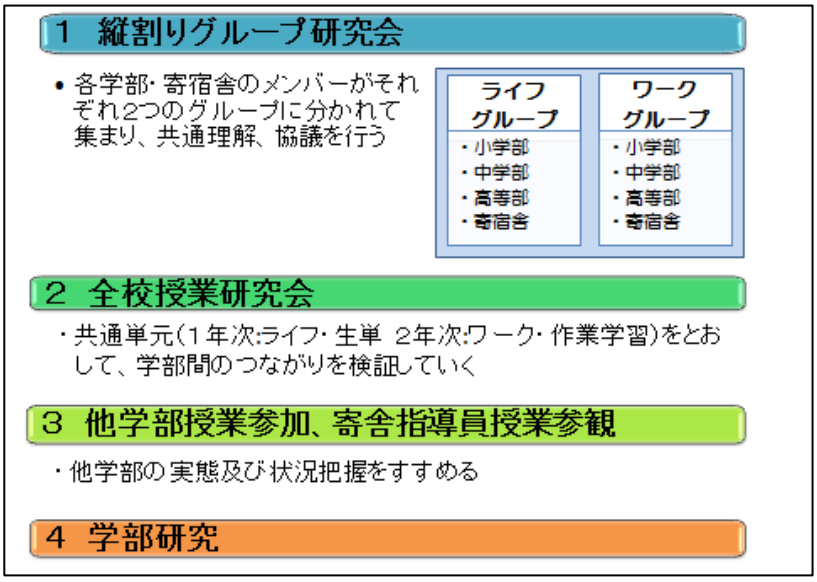
また、小学部から高等部へと目標や指導内容などに継続性・発展性をもたせることで、ステップアップし成長していく充実感を児童生徒自身が感じることができると考える。そのためには、各学部・舎が目標や指導内容、支援方法などにつながりをもたせ、共通理解のもと授業や指導に取り組むことが重要であると考え、本テーマを設定した。

Ⅲ　研究の目的

各学部・寄宿舎間において指導目標や指導内容、支援方法などのつながりを意識し、継続性や発展性を図ることで、児童生徒の現在と将来の充実した生活を目指す。

Ⅳ　研究の方法





Ⅴ　研究の内容

１年次：『目標や指導内容』のつながり

２年次：主に『支援方法』のつながり

Ⅵ　研究経過

月	形態	研究内容（１年次）	
5	全校 学部	全校研究計画の再提案 学部キーワード決定	
6		各学年、各作業班ごとに生活単元学習、作業学習の年間指導計画様式を見直し、目標を入れる作業	全校授業参観（小学部） →アンケート
7	学部	作業学習年計を学部で確認（中・高） 生活単元学習年計のライフ、ワークの確認（小学部）	全校授業参観（中学部） →アンケート
8	学部	生活単元学習年計の単元ごとの目標を入れ、学部で確認	
9	ｸﾞﾙｰﾌﾟ	年計、単元の目標の確認と学部間のつながりの検討	
10	ｸﾞﾙｰﾌﾟ	〃	
11	ｸﾞﾙｰﾌﾟ 全校	〃	全校授業参観、研究会、キャリア校内研究支援（高等部）
12	ｸﾞﾙｰﾌﾟ	学校と寄宿舎のつながり（寄宿舎重点指導事項）	
1	学部	グループ研究会を受けて、H27年計準備	
2	学部	〃	
3	全校	全校研究会（１年次のまとめ発表）	

月	形態	研究内容（２年次）	
4	全校 学部	第１回全校研究会（研究計画の提案） H27年計（生単、作業）の確認	
5	学部	（学部内→全体へのつながりの確認） 学部の推進計画、全校授業研について、グループ分けなど	
6	学部	学部内の支援方法のつながりについて（作業・買い物）	
7	学部	学部内の支援方法のつながりについて（作業・買い物）	学校・寄宿舎合同 グループ研究会
8	ｸﾞﾙｰﾌﾟ	作業・生単の支援方法について（小中高のつながり）	
9	ｸﾞﾙｰﾌﾟ	作業・生単の支援方法について（小中高のつながり）	
10	全校		全校授業研究会 小学部、中学部、高等部
11	ｸﾞﾙｰﾌﾟ	作業・生単の支援方法について（小中高のつながり）	
12	学部 全校	学部のまとめ ２年次のまとめ	
1	全校	２年間のまとめ	
2	学部	来年度の研究について	
3	全校	来年度の研究について ホームページへアップ	

Ⅶ　研究の実践

《学部研究》

小学部研究

１　１年次：生活単元学習の「年間指導計画」の目標や活動内容の見直しとつながりの確認

（１）取り組みと成果

①学部キーワード「できた」の設定

→目標や学習内容の検討の際に単元のつながりを確認できた。

②単元の目標を記載

→学団間の指導内容のつながりが確認しやすくなった。

例【光陵祭をがんばろう】

低学団　・劇の内容や自分の役割を知り、練習や準備に取り組み、達成感を味わう。

高学団　・劇の内容を知り、自分の役割を意識して練習や道具作りに取り組むことができる。

・大勢の人の前で表現する喜びを感じ、達成感を味わう。

③中学部の作業学習につながる観点と単元の設定

→指導の観点について共通理解を図ることができ、中学部に向けた目標設定ができるようになった。

ワークの視点を含む単元	観点
調理をしよう、野菜を育てよう、 クリーン大作戦をしよう、卒業に向けて	作業学習につながる
作品を作ろう	指先や道具を使う
校地外学習に行こう、宿泊学習に行こう 校外学習に行こう	ルールを守る
学級作りをしよう、宿泊学習に行こう 光陵祭をがんばろう、児童総会に参加しよう １年を振り返ろう、卒業生を送る会をしよう	組織・役割を学ぶ

④授業実践

→宿泊学習の荷物点検など、キーワードを意識して授業作りをすることができた。

（２）今後にむけて

・年間指導計画作成の際に、学団の担当者で指導内容のつながりを確認する。

・実践しながら単元や目標、学習内容、実施時期等の見直しを行い、最適化を図る。

２　２年次：「支援方法」のつながりの確認

（１）取り組みと成果

＜買い物学習＞

①低学団、高学団の実践例から、支援のつながりや課題の解決策の検討

→小学部の買い物のねらいと、細かい支援方法について確認できた。

○小学部の買い物のねらいは「決められた物を買うことができる」

低：教師と一緒に

高：できるだけ一人で

○課題の解決策をふまえた支援のつながり

品物の探し方	財布	レジでのやりとり
写真カードで提示し、教師と一緒に品物があるところまで行く。	財布の口の大きさを手が入る物にする。 お金が見えやすい物にする。	お金を財布から取ってほしいことを示したカードと財布を店員に渡す。
写真＋文字＋量を提示し、売り場の表示についての手掛かりを写真で伝えておく。	指先で小銭が取れるようになったら、財布の大きさを小さい物にする。	500 円玉や 1000 円札などの大きいお金を出して、開けておいた財布にお釣りを入れてもらう。
	札と硬貨を分けて入れるものにする。	財布から自分でお金を出し、お釣りとレシートを入れる。

＜作業的な内容の生活単元学習（調理）＞

①低学団、高学団の実践例から、支援のつながりや課題策の検討

→調理における学団ごとのねらいと支援方法のつながりを共通理解できた。また、自分で身支度ができることを目指す支援方法の検討ができた。

〇ねらい　低学団：教師と一緒に、自分のものを作る。
　　高学団：手順表を見て、みんなのものを作る。

〇身支度の支援方法

・三角巾にゴムを付けたり、エプロンにマジックテープを付けたりして自分でできるようにする。

・靴やファイルでひもを結ぶ機会を設定し練習することで、自分で三角巾やエプロンを結べるようにする。

（２）今後にむけて

・一人一人の実態に応じた「できた」を積み重ねていくための、更なる支援の検討と実践

＜買い物学習＞

・レジでのやりとりへの支援方法を児童一人一人に合わせて検討する。

＜作業的な内容の生活単元学習（調理）＞

・コミュニケーションや身支度は日常生活と関連させて取り組んでいく。

３　２年間の取り組みをとおして

（１）成果

・学団間の発展性を意識した年間指導計画の作成ができた。

・支援方法のつながりをもたせたことで、「できた」を繰り返す授業実践を行おうとする意識をもつことができた。

・中学部、高等部、卒業後を見据えた指導を考えられるようになった。

（２）今後にむけて

・日常生活の指導や図画工作などの教科においても、学団間のつながりを意識した年間指導計画の作成を行う。

中学部研究

１　１年次:生活単元学習・作業学習の「年間指導計画」の目標や活動内容の見直しとつながりの確認

（１）取り組みと成果

①学部キーワード「自分から」「自分で」の設定

→生徒の主体性を引き出すことを意識して、年間指導計画のねらいや学習内容を検討することができた。

＜生活単元学習＞

①単元（項目）の整理

→単元、ねらい、学習内容、実施時期の最適化を図ることができた。

学年	題材・単元	学習内容・活動
１年	・運動会に向けて	・種目練習、開・閉会式練習、応援練習等
	・運動会の打ち上げをしよう	・買い物、調理

学年	題材・単元	単元の目標	学習内容・活動
１年	・運動会をがんばろう	・見通しをもって練習や本番に参加できる。 ・振り返りを通して、達成感や満足感を感	〇事前練習 ・日時、組分け、参加種目の学習

		じたり、互いを称え合ったりできる。 ・必要な物や売り場を理解し、買い物ができる。 ・包丁等の器具の使い方を知り、簡単な調理ができる。	○練習 ・種目　・応援　・開・閉会式 ○事後学習 ・振り返り ・打ち上げ（買い物、調理、会食）

②ねらい（単元目標）や学習内容のつながりの確認

→「(１年) 知る,学ぶ →（２年）調べる,分かる →（３年）深める,生かす」の観点に沿って、系統性をもたせることができた。

学年	題材・単元	単元の目標
１年	宿泊学習に行こう	・県内の他の地域の様子を知り、興味を持つことができる。 ・集団行動の決まりを守り、活動することができる。
２年	宿泊学習に行こう	・自分の住んでいる地域と他の地域の違いが分かる。 ・集団行動の決まりを守り、仲間と協力して活動することができる。 ・マナーやルールを守りながら、公共の施設を利用できる。
３年	修学旅行に行こう	・仲間と協力して活動計画を立てることができる。 ・修学旅行に期待感をもって調べ学習に取り組むことができる。 ・公共交通機関、公共施設利用時のルールやマナーを実践することができる。

＜作業学習＞

①年間目標の観点を確認し、目標や評価の観点の共通化

→生徒がどの作業班に所属しても、「物を作る喜びを味わう」「作業態度の習慣の育成」「基本的な知識や技能の習得」を身につけることができるようになった。

【見直し前】

木工班	・適切な作業態度や言葉遣いを身につける。 ・正しい道具の使い方が分かり、作業技術を身につける。 ・仕上がりを意識し、丁寧に作品作りに取り組む。
手芸班	・適切な作業態度や言葉遣いを身につける。 ・道具の使い方が分かり、基本的な作業技術を身につける。 ・目標を決めて製品作りに取り組み、達成感を味わう。
リサイクル班	・適切な作業態度や言葉遣いを身につける。 ・作業手順を理解し、安全に作業ができる。 ・決められた時間内、集中して取り組む。
農芸班	・農作業をとおして植物を育てることに興味関心をもつことができる。 ・野菜の収穫や販売をとおして、働くことへの喜びを感じることができる。 ・場に合った挨拶や報告をすることができる。

【見直し後】

目標の観点：「物を作る喜びを味わう」

木工班	・木工作業をとおして、物を作る喜びや達成感を味わう。
農芸班	・農作業をとおして、作物や植物を育てることに興味関心を持ち、収穫する喜びや達成感を味わう。
リサイクル班	・製品作りや缶の納入の目標数を目指し、達成感を味わう。

目標の観点：「基本的な知識や技能の習得」

木工班	・作業手順や器具・工具の使い方が分かり、安全に作業することができる。
農芸班	・商品であることを意識して、丁寧に製品を製作することができる。 ・作業で使用する道具の正しい使い方を知り、安全に作業することができる。
リサイクル班	・作業手順を理解し、安全に作業することができる。

目標の観点：「作業態度や習慣の育成」

全班共通	・姿勢や話の聞き方などの基本的な作業態度、返事・報告・質問などの基本的な言葉遣いを身につける。

（２）今後にむけて

＜生活単元学習＞＜作業学習＞

・単元の精選、学習内容のつながり、支援方法のつながりについて検討し、さらに系統性を図っていく。

２　２年次：「支援方法」のつながりの確認

（１）取り組みと成果

＜買い物学習＞

①ねらいの検討

→ねらいについて、中学部３年間のつながりや、小学部、高等部とのつながりを明らかにすることができた。

高等部１年	・買う物の組み合わせを工夫し、予算内で目的に適った買い物をすることができる。 ・電卓を使用して、合計金額を計算することができる。
中学部３年	・分からないことを質問しながら、一人で買い物することができる。 ・物の値段の高い安いを意識しながら買い物することができる。
中学部２年	・手掛かりを活用しながら、一人で指定された物を買うことができる。 ・価格や内容量など表示に注目して、目的に合った買い物をすることができる。
中学部１年	・教師の支援を受けながら、指定された物を買うことができる。 ・価格や内容量など、表示の見方を知る。
小学部高学団	・買い物の楽しさを味わいながら、目的や流れを覚えて実践することができる。

②支援方法のつながりの確認

→学年のねらいに合わせて支援を考え、買い物メモや学習シートの活用方法、予算、店内で分からないことがあったときの対処法など具体的な支援方法について、つながりを共通理解することができた。

例：【学習シート】

１年	写真付きで、買う物と量を提示
２年	買う物、金額を自分で記入、写真を貼り作成
３年	必要な物、量、予想金額を自分で記入

＜作業学習＞

①全ての作業班で共通して行う支援方法の確認

→作業態度についてカードを用いて掃除に評価すること、服装点検、報告の仕方をどの作業班でも共通して実施することができた。

→スケジュールや手順の提示の仕方、イラスト（シンボル）を共通化していくことを確認した。

（２）今後にむけて

＜買い物学習＞

・「自分から」「自分で」取り組むことができるようになるための具体的な学習内容、支援方法を検討していく。

・具体的なスキルを学ぶ機会を授業に盛り込んでいく。

＜作業学習＞

・全作業班で共通化していくことを確認し、取り組みを図っていく。
（活動提示の仕方、評価基準、報告の仕方、身だしなみの確認、掃除等）

・支援ツール（補助具、手順表、シンボル　等）

・職員同士の情報共有のあり方
（実態や支援方法の共通理解、評価や支援ツールの引き継ぎ　等）

３　２年間の取り組みをとおして

（１）成果

・学部内、学部間のつながりを意識することで、年間指導計画に系統性をもたせ、授業を実践することができた。

・「自分から」「自分で」というキーワードに沿って、生徒の主体性を引き出す学習内容や支援方法を考え、実践することができた。

（２）今後にむけて

・単元の精選、学習内容や支援方法のつながりについて検討する機会を設け、さらに共通理解を図っていく。

高等部研究

１　１年次:生活単元学習・作業学習の「年間指導計画」の目標や活動内容の見直しとつながりの確認

（１）取り組みと成果

①学部キーワード「自己選択・自己決定」の設定
→学部の目指すものについて共有できた。

＜生活単元学習＞

①学年のつながりを考えた系統性のある目標を設定
→各学年での指導内容が明確になった。

②単元名の統一
→流れが整理され学年のつながりが意識化された。

＜作業内容＞

①ねらいが分かるような単元名を設定
→指導内容が明確になった。

②学部で確認した「卒業までに身につけたい力等」を「リーダーとしての役割、働くために必要な力」として項目にし、全ての作業班の年間計画に盛り込んだ。
→日常の活動において意識しながら重点的に指導できる場面が増えた。

◎リーダーとしての役割

・作業報告書作成、作業報告　・作業リーダー会議　・作業朝礼、終礼　・義援金贈呈計画

・作業リーダー会議で意見を述べる、内容を班員に伝える

◎働くために必要な力
・姿勢　・挨拶　・報告　・返事　・言葉遣い　・身だしなみ　・指示理解　・伝える力
・持ち物の準備、管理、片付け　・話の聞き方　・質問の仕方　・安全点検　・コミュニケーション
・技術の向上　・安全　・時間の意識　・丁寧さ　・正確性　・チェックリストの見方
・販売リスト票記入　・売り上げ計算の仕方

（２）今後にむけて

＜生活単元学習＞＜作業学習＞

・各学年の話し合いや、作業班での話し合いをとおして、生徒の実態を把握し、学年のつながりや学部キーワードをふまえた年間指導計画を作成し、実践していく。

２　２年次：「支援方法」のつながりの確認（買い物学習・作業学習）

（１）取り組みと成果

＜買い物学習＞

①事例研で課題や支援について検討

→価格表示の見方、予算の立て方、予算内で収める買い物の仕方、こづかい帳の付け方など、卒業後の生活形態を意識した買い物の仕方について、各学年で段階を踏んだ指導ができ、事例研後日常の情報交換などで課題や支援について共通理解することができた。

＜作業学習＞

①陶芸班の事例をもとに全作業班の課題や支援について検討

→作業学習における取り組み（報告・質問の機会、あいさつの仕方や姿勢、環境の設定、生徒情報の共有、作業に対する意識など）について、確認・共通理解することができた。

（２）今後にむけて

＜買い物学習＞

・卒業後のそれぞれの進路を見据え、買い物の経験を増やすことやトラブルへの対処法のしかたなど、実態に応じて必要な支援に取り組んでいく。

＜作業学習＞

・作業学習における課題に対する具体的な支援方法について、学部内でさらに検討を行い、共通理解のもと実践していく。

３　２年間の取り組みをとおして

（１）成果

・年間指導計画では、ねらい、指導内容等整理されたものを作成できた。
・生活単元学習ではステップアップできるような目標が設定できた。
・学部内と学部間の指導内容や支援方法について、つながりを意識しながら研究会に参加できた。
・高等部キーワード「自己選択・自己決定」をふまえた年間指導計画を作成することによって、卒業後の自立にむけた支援について意識を共有し、取り組むことができた。

（２）今後にむけて

・授業事例研などをとおして、生徒の課題や支援のあり方について共通理解を図っていく必要がある。

寄宿舎研究

1　１年次:重点指導目標の見直しとつながりの確認

（1）取り組みと成果

①内容の見直し、つながりの確認と整理

→重点指導目標を共通理解し、各学部のキーワードを手掛かりに、学部のつながりを意識した重点指導目標一覧（資料１）を作成することができた。

（2）今後にむけて

・個別の生活指導目標作成時、重点指導目標の学部のつながりを意識しながらの目標設定をしていく。

・日常的な活用につなげていく。

重点指導目標の確認事項

（ア）重点目標の捉え方

・目標内容は、学部毎に入舎生の実態に応じて設定し、目指す内容とする。

・毎年、内容については見直しを行う。

（イ）学部キーワード

（小）一緒に　　（中）一人で　　（高）自主的に

（ウ）項目の追加

・３領域に分け（生活習慣、コミュニケーション・社会性、健康安全）項目ごとに目標設定を行う。

（エ）空白を作らない

・どのような項目であっても、つながりをもち取り組む。

2　２年次：目標達成への効果的な支援方法を探る

（1）取り組みと成果

①支援方法の引き継ぎ

→前年度からの支援方法を引き継いで取り組んだことで、個別的な発達段階に合わせた支援を行うことができた。

②棟会やグループ研での話し合い

→支援方法を軸に、話し合いの機会をもつことで共通理解を深めることができ、支援の充実につながった。

（2）今後にむけて

・寄宿舎の担当職員内や学級担任と、継続した情報交換の機会を作り、学舎でつながりのある支援を検討していく。

3　２年間の取り組みをとおして

（1）成果

・学部重点指導目標の見直しを図ったことで、学部のつながりが明確となり、個別の生活指導目標の目標設定の際の手がかりとなった。

・舎室担当が変わっても、生徒を見る視点を合わせることで、支援のつながりの必要性を確認することができた。

・支援方法について、定期的に小グループの検討を重ねていくことで、支援の見直しや方向転換を積極的に行うことができ、生徒一人ひとりの支援の充実へとつながった。

（２）今後にむけて

・学部重点指導目標をもとに、個別の生活指導目標の目標設定をし、日常的な活用につなげていく。

・学校・寄宿舎合同グループ研、寄宿舎参観を継続していくことで学舎のつながりを深めていく。

・今年度取り組んだ個別の生活指導計画の実践を基に、生徒の実態や個々に合った支援の視点を確実に引き継いでいく。

《全校研究》

縦割りグループ研究会

１　ワークグループ・ライフグループ研究会

（１）１年次：年間指導計画（作業学習、生活単元学習）の目標や内容のつながりの確認

○ワークグループ

・各学部の作業学習の取組の情報交換と意見交換をとおして、各学部の主体的な姿の共通理解を図った。また、どの段階でも挨拶、報告、質問などは指導が必要であること、装具の使い方や着替えの手順や掃除の仕方などは共通の決まったやり方で取り組みたい活動であることを確認した。そして、「（ワークの視点で）卒業までに身につけたいこと」（資料２）をまとめた。

○ライフグループ

・各学部の生活単元学習の年間目標、単元（調理、買い物、光陵祭製品販売、校外学習）の目標・内容について検討し、「平成２６年度生活単元学習年間目標における要素」（資料３）をまとめた。

成果　→　目標や内容を学部目標やキャリア教育全体計画に照らし合わせながら、継続性・発展性を確認することができた。

（２）２年次：支援方法のつながりの確認（ワーク：作業学習、ライフ：買い物学習）

○ワークグループ

・各学部の実践を紹介し、支援の観点（「物を作る喜び・達成感」「作業態度、基本的な知識や技能」「コミュニケーション」をもとに意見交換し、支援のつながりを検討した。（資料４）

○ライフグループ

・各学部の実践を紹介し、各学部・学年による買い物学習のねらいをまとめ（資料５）、支援の観点（「買い物の準備」「手順・マナー」「その他（買い物に必要な力）」をもとに意見交換し、支援のつながりを検討した。（資料６）

成果　→　各学部の取組の様子や支援について共通理解し、小学部から高等部までの支援のつながりについて検討することができた。

２　学校・寄宿舎合同グループ研究会

（１）１年次：寄宿舎重点指導目標についての検討、事例研究についての意見交換

・ワークグループ・ライフグループに分かれ、少人数グループによる研究会を実施した。

成果　→　寄宿舎重点指導目標（資料１）について、寄宿舎学部キーワードや重点

指導目標の捉え方等の確認をし、重点指導目標を共有することができた。

（２）２年次：事例研究について意見交換（寄宿舎職員一人１事例発表）

・ワークグループ・ライフグループに分かれ、ワークショップ形式で研究会を実施した。

成果　→　事例研究において、寄宿舎の取り組みについて共通理解を図り、学校と寄宿舎のつながりを考えることができた。（１・２年次共通）

全校授業参観・研究会

全学部共通の単元で、授業参観・授業研究会を実施

１　１年次：生活単元学習「宿泊学習」

第１回　小学部「みんなでとまろう！」（内容：荷物点検）

第２回　中学部「宿泊学習にへ行こう」（内容：行き先を調べる）

第３回　高等部「宿泊学習」　（内容：マナー学習(公共施設・バイキング)）

・目標、内容についてステップアップできていることを確認できた。（「Ｈ２６年度宿泊学習・修学旅行各学部、学年の目標における要素」（資料７））

・同じ目的地の場合、目標や内容がステップアップする必要がある。（「Ｈ２６年度校外学習・宿泊学習　行き先・活動内容等一覧」（資料８））

・入浴指導の統一など、寄宿舎との連携も必要である。

成果　→　目標や活動内容などについて、系統性をみたり意見交換をしたりして共通理解を図ることができた。

２　２年次：「作業学習」（小学部：作業的な内容の生活単元学習）

第１回　小学部「誕生会を祝おう」（内容：調理(カップケーキ作り、誕生会)

第２回　中学部「キャンドル作り」（内容：農芸班　キャンドル作り）

第３回　高等部「光陵祭販売会～調理班で売り上げ 10 万円を目指そう～」

（内容：調理班　製品作り）

・支援の観点（「物を作る喜び・達成感」「作業態度、基本的な知識や技能」「コミュニケーション」をもとに意見交換し、支援のつながりを検討した。

成果　→　各学部とも目標に対して、学部のキーワードに向かって取り組めるような支援がなされ、支援のつながりを確認できた。（資料９）

他学部授業参加・参観、寄宿舎参観

１　１年次：他学部へ行こう週間（前期・後期各１回ずつ実施）

２　２年次：他学部へ行こう週間（前期・後期各１回ずつ実施）

寄宿舎参観週間（１０月に５日間実施。下校後の生活の様子を参観）

成果　→　他学部、寄宿舎の様子や支援について理解を深め、一貫性のある指導について考えることができた。

Ⅷ　まとめ

○成果

・縦割りグループ研究会で、年間指導計画の目標や内容の検討や事例研究等を行うことで、他学部の取り組みについて理解を深め、目標や指導内容のつながりを確認することができた。

・各学部のキーワードを設定したことで、各部内・学部間のつながりをもって授業作りに取り組むことができた。

・単元の目標を明確にした年間指導計画をもとに、全校で系統性を確認し、授業実践を行うことができた。
・グループ研・授業研究会をとおし各学部の具体的な支援について共有し、支援のつながりを確認することができた。
・２年間の取り組みをとおして、小中高・舎のつながりを確認し、系統性・発展性を意識した支援に取り組むことができた。

○今後にむけて

・年間指導計画は実践しながら見直しを行い、更に系統性・発展性を図っていく。
・系統性を確認した年間指導計画をもとに、児童生徒が主体的に活動し達成感や充実感を得られる授業実践に取り組んでいく。
・小中高・舎の間で情報交換や共通理解の場を設定し、引き続き支援をつなげていく。
・個別の指導計画や個別の生活指導計画、個別の教育支援計画の活用をとおして、小中高・舎の間で支援をつなげていく。